

34回目のクリスマスのゆうべ

12月15日(土)16時より、遺愛学院講堂で「クリスマスのゆうべ」を開きました。講堂にパイプオルガンを設置した1985年から開催しており、今年は34回目で約200名の方々が来場して下さいました。

厳かな雰囲気の中、聖歌隊の生徒がキャンドルを手に歌いながら登場、これも34年間続いています。第1部では、ハンドベル部の生徒が「きよしこの夜」を演奏し、全員で讃美歌を歌い、森野先生が聖書を読み、『クリスマスの贈り物』と題してクリスマスメッセージを語りました。

第2部は「音楽のおくりもの」と題し、吹奏楽局員によるアルトサクソフ演奏、木管8重奏、音楽部の合唱、ハンドベル部演奏、白須先生によるソプラノ独唱、水田先生によるパイプオルガン演奏などがありました。

最後に、お楽しみとしてサンタクロースに扮した柳谷先生、トナカイに扮した雁沢先生が登場し、柳谷先生はドミンゴばりのバリトンを、雁沢先生はクリスマスソングをジャズ風にアレンジしたピアノを披露し、来場した子どもたちに待ちに待ったプレゼントを渡しました。

終了後には、改修工事を控え22日以降立ち入りできなくなる国の重要文化財、遺愛学院本館を希望者にご案内しました。

2018年12月19日(水)

